

九州・沖縄支部福岡地区協議会 物流研修会開催

— 10月17日 —

九州・沖縄支部福岡地区協議会は10月17日（木）ANAクラウンプラザホテル福岡に於いて物流に関する研修会を開催した。近年、加工食品物流は流通構造の変化を受けて運用形態が多様化し、また物流分野における労働力不足が長期化するおそれがあることなどから加工食品の物流は厳しい現実局面に直面している。特に加工食品物流は、多頻度小口配送や厳格な納品時間指定、納品時の付帯作業、長時間の待機時間などトラックドライバーが加工食品の配送を敬遠し、人手不足に拍車をかける要因になっている。当日はこうした環境を踏まえて日食協本部の奥山専務理事が本部の物流問題研究会で現在取り組んでいる内容について解説し、福岡地区協議会企業11社の物流担当者と意見交換を行った。

「N-Torus」についてはシステムを開発した富士通からシステムの詳細について解説をいただいた。

（当日の主な研修内容）

- ・ 業界標準化推進基盤の構築に向けて
「N-Torus」日食協業界標準トラック入荷・受付システムについて
- ・ 加工食品卸売業の共同配送推進の手引について
- ・ メーカーのリードタイム延長化要請に対する考えについて
- ・ 福岡地区協議会の物流部会（案）の活動について
- ・ 「Fライン」に対する取り組みについて



福岡地区協議会物流研修会 会場

北陸支部経営実務研修会開催

— 10月23日 —



開会の挨拶をする
北陸支部長 荒木章氏

北陸支部主催の経営実務研修会が、10月23日（水）金沢市のホテル日航金沢で開催された。当日は会員卸、賛助会員合わせて約60名が参加した。

事務局の有側直人氏（カナカン（株））の司会進行で始まり、冒頭支部長の荒木 章氏（カナカン（株））が挨拶し「先日の、台風19号では関東甲信越・東北地方に大きな被害がありました。北陸には直接の被害はありませんでしたが、2次被害の総額は予想以上に大きく、北陸新幹線が不通になった影響は今も続いています。先月「家康、江戸を建てる」という本を読みました。家康は、国替えが決定すると、即座に実施したのが、河川の大改修を指示。関が原の戦いの10年前です。江戸は暴れ川で、沼地・湿地帯の不毛の地でした。利根川の源流を東に移動し、渡良瀬川に合流させた大工事を実施。河川の流れを変えたことで、川の氾濫はなくなり、不毛の寒村を一大穀倉地帯に変えたことが、後の江戸の繁栄の源になりました。日食協の活動は、これと同じインフラの整備です。卸の機能向上と、食品流通全体の品質レベルアップを目指し、食品の中間流通として、サプライチェーン全体を俯瞰し、国の立法、行政に対しても、意見を具申しております」と述べた。

続いて奥山専務理事が日食協事業活動を行い、消費増税に伴う軽減税率制度の導入に関しては、物流システムでは大きな問題は発生していないが、11月から本格化する企業間取引における代金回収や支払い業務、さらにはリベートの適用税率など当面の課題と述べた。

続いて講演会に入り、講師に商い創造研究所代表取締役松本大地氏を招いて「半歩先の変化を解く商いの新しいものさし～ネット時代に求められる食の価値創造～」と題して講演された。その中で松本氏は地域経済を循環させるには、ローカルファーストによる発展が重要で、ローカルファーストは、地域資源を使った、地域の魅力がつくられることで、地域のヒト、モノ、経済力が育ち、定住人口、交流人口、地域経済循環増を生み、持続可能な社会ができると述べた。終了後懇親会を行い開宴の挨拶を澤田悦守氏（北陸中央食品（株））が行い、中締めを藤井伸子氏（マルコク（株））が行って閉会した。



講演する松本大地氏



北陸支部経営実務研修会 会場

関東支部経営実務研修会開催

— 11月8日 —



開会の挨拶をする
関東支部長 佐々木淳一氏

関東支部は11月8日（金）日暮里のホテルラングウッドに於いて経営実務研修会を開催、約70名が参加した。

会の冒頭で関東支部支部長の佐々木淳一氏（日本アクセス（株））が挨拶し「関東支部は全国の8支部のうち最大規模でメーカー様の工場を見学する商品研修会も企画している。今年はキッコーマン様と東洋水産様を訪問した。今年の業界の最大課題である消費税増税に伴う軽減税率制度に対する対応であるが、今のところ受発注システムを含め物流面では大きな問題は生じていないが、11月から本格的に始まる支払業務、回収業務が新しく区分記載請求書を用いて行われ、リベートの適用税率についてもお互い齟齬を来さないように運用するなど、慣れるまで業務の負担がかかるかもしれない。また来年は2020東京大会が開催される。開催期間は道路を含めて交通混雑が深刻化する。都心部の交通量は平日の3割減とする目標が示されている。商品調達や配送計画など得意先と調整し、BCPを作成して万全を期したい」などと語った。

続いて奥山専務理事が事業活動を報告。「2020東京大会の期間中の交通規制に関するオリジナル資料をTDM推進プロジェクト事務局から拝受し日食協のHPに掲載するのでこれを活用してBCPの作成を行い円滑な物流対応をして欲しい。日食協業界標準トラック入荷受付・予約システム」（愛称：N-Torus）は現在12社21拠点で活用されている。生産性向上や働き方改革への対応として従前からの非効率な業務フローの見直しは重要な課題。以前から極めて優先順位の高い商品情報登録の早期化は製配の業務を軽減するものであり改めてメーカー各位にお願いした」と述べた。

その後講演会に入り、商い創造研究所の代表取締役松本大地氏が「半歩先の変化を解く、商いの新しいものさし～ネット時代に求められる食の価値創造～」と題して講演した。終了後懇親会を行い、開宴の挨拶を関東支部流通業務委員長の渡辺 徹氏（三井食品（株））が行い、中締めを八十島幹夫氏（ジャパン・インフォレックス（株））が行って閉会した。



講演する松本大地氏



関東支部経営実務研修会 会場

東海支部・中食連合同懇談会開催

— 11月13日 —



開会挨拶をする永津嘉人
東海支部長・中食連会長

中部食料品問屋連盟と日本加工食品卸協会東海支部は11月13日、正会員・賛助会員合同懇談会を名古屋観光ホテルで開催、正会員・賛助会員合わせて226名が出席した。

合同懇談会は東海支部長・中食連会長 永津嘉人氏の開会挨拶に始まり、日本加工食品卸協会・奥山則康専務理事が「消費税の増税がスタートした。食品は軽減税率の対象であり影響は軽微との予想もあったが、自社発行のカードへの高ポイント付与などの積極的な消費喚起策が行われ、市場はより一層軟弱化し、克服傾向にあったデフレの再燃が懸念される」と挨拶し日食協活動報告を行い、協会が開発したトラック入荷・受付システム『N-Torus』などを説明した。

永津嘉人 東海支部長・中食連会長の挨拶

物流業界では人手不足が叫ばれ、国としてホワイト物流推進運動を進めており、メーカーでは共同物流や納品日等の変更を進めている。我々卸として互いに競い合う「競争」は継続するものの、協力しあう「協業・協調」、可能な部分は積極的に取組みを行っていききたい。業界全体でより効率化を目指し改善を進めていきたい。

食品業界を取り巻く環境は今後も厳しさを増していくことが予想される。物流問題や軽減税率の対応など業界全体で取り組むべきことはしっかりと取り組むとともに、会員の皆様との連携を大事にしていきたい。



合同懇談会会場



講演する白鳥和夫氏

講演の部では白鳥和夫氏（日経新聞編集局調査部次長、日本フードサービス学会理事）による「流通と消費を読む」を演題に、現在の消費環境や小売業界の動向、持続可能な経営を行っていくうえでの課題などを解説。特に時代を読むキーワードとして「JIKAN（持続可能性・イノ

ベーション・健康・愛され応援されること・NIPPON)が重要であると説明した。

懇親会はカゴメ・山口聡取締役常務執行役員野菜事業本部長兼ベジタブル・ソリューション部長が「昨今、大きな問題となっている物流費の高騰は卸だけではなくメーカーとしても頭を悩ませており、1社だけで解決できる問題ではない。我々を取り巻く環境は厳しさを増しているが、メーカーとして商品の価値や売り方に磨きをかけると同時に皆様と一緒に地域の食を盛り上げていきたい」と開会挨拶と乾杯の音頭を行った。歓談が各所で行われた後、日清オイリオグループ・長岡宏理事中部支社長が「今年の流行語大賞にノミネートされた言葉にはラグビーW杯に関連したものが見られる。そのなかで『ワンチーム』は普段は違うチームにいる選手が集まり、スローガンであり理念やベクトルとなって集団となって力を発揮した。食品業界を取り巻く環境が厳しさを増すなか、卸では『競争と協調』が大事になっており、これはワンチームに通じるものがある」と中締めを行った。

北海道支部交流会開催

— 11月15日 —

北海道支部ワーキンググループは11月15日（金）札幌パークホテルに於いて交流会を開催した。メーカー、卸など会員約105人が参加した。当日は池田 晃氏（日本アクセス北海道（株））の司会進行で始まり、冒頭支部長の布施和博氏（日本アクセス北海道（株））が挨拶し



開会の挨拶をする
北海道支部長 布施和博氏

「消費増税や食品ロス削減をはじめ、働き方改革、人手不足、物流改善など解決すべき課題は多い。特に物流環境は厳しい状況にあり、トラック輸送の生産性の向上・物流の効率化を目的としたホワイト物流推進運動の一環としてリードタイム延長化に伴うお願いを製造業者・小売業者に提言しているところです。相互に協力関係を構築し、円滑な食品物流を維持するため、北海道支部としても一致団結して課題に立ち向かって参ります。」と述べた。次いで奥山専務理事が「業界標準化推進基盤の構築に向けて」と題して、日食協業界標準トラック入荷受付・予約システム「N-Ttors」の概要を動画も交え紹介した。また講演会では日本パインアップル缶詰協会の柘植茂晃専務理事が「食べ物と健康・安全性（特にくだもの）」と題して講演を行い、古代から続く人類と果物の関わりや食品における安全性の重要性を訴えた。終了後、懇親会を行い閉会した。



講演する柘植茂晃氏

東北支部経営実務研修会開催

— 11月26日 —



開会の挨拶をする
東北支部長 佐藤淳氏

東北支部は11月26日、仙台市のホテルモンテレ仙台で会員、メーカー賛助会員による経営実務研修会を開催した。当日は事務局の村川誠明氏（国分東北（株））の司会進行で始まり、最初に支部長の佐藤 淳氏（佐藤（株））が挨拶し、「今回の消費税対策であるキャッシュレス・ポイント還元は中小事業者が対象ですが、適用対象外の大型店などは独自のポイント還元や値引きの対応をしている。一部の消費者はその恩恵を受けているものの企業は価格競争が厳しくなり、確実に利益が圧迫され、競争力の低下や格差拡大が懸念される。また食品ロス削減に向けた取り組みや法制度が広がりを見せており、小売事業者においても納品期限緩和等に取り組みを始めている。当社も食品ロス削減のシンボルマーク「ロスノン」を使って社員の啓蒙活動を

始めている。東北における商環境は全国と比較しても大変厳しい。こうした環境を打開すべく知恵を絞って一致団結して堅実に邁進し難局を乗り越えたい」と述べた。

続いて奥山専務理事が日食協事業活動報告を行い「消費増税によるポイント還元セールで市場は体力勝負の消耗戦の様相を強めている。メーカーの皆様に業界の商品マスタを一元管理するJIIへの新商品のマスタ登録の早期化をお願いしている。新商品のマスタ登録は卸の営業業務の起点になるものであり、メーカーも相互に業務が楽になるのでご協力願いたい。物流問題ではリードタイムの延長化の要請を受けているがメーカー・卸間だけでは限界があり、サプライチェーン全体で考えたい。3月にスタートした日食協業界標準トラック入荷受付・予約システムは愛称を「N-Torus」と定め、現在12企業21拠点となった。農林水産省も推奨しているシステムで、協調領域事業として進化を目指す」と述べた。



講演する松本大地氏

続いて講演会に入り、商い創造研究所代表取締役松本大地氏が「半歩先の変化を解く、商いの新しいものさし～ネット時代に求められる価値創造」と題して講演。今は生活提案から「生活創造」の時代にあり、食の質の追求でのキーワードは「健康」。業界全体が発展成長するには「社会課題解決の取組」が必要。アメリカのポートランド、スペインのサン・セバスチアンの魅力は「食の深耕」にある。定住人口・交流人口・地域経済循環増を同時に達成する「食での地方創生」などと述べられた。終了後の懇親会では開宴の挨拶と乾杯を和田陽一氏（加藤産業（株））が行い、中締めを池尾 良氏（日本製粉（株））が行って閉会した。



開宴挨拶をする
加藤産業(株) 和田陽一氏

九州・沖縄支部連絡協議会・賛助会員連絡会開催

— 12月3日 —



挨拶する
九州・沖縄支部長 網田日出人氏

九州・沖縄支部は12月3日（火）博多ANAクラウンプラザホテルに於いて17時より連絡協議会を開催。支部事務局の御船弘久氏（ヤマエ久野（株））の司会進行で始まり、最初に九州・沖縄支部長の網田日出人氏（ヤマエ久野（株））が挨拶し、議案の審議に入り、令和2年度の新年交礼会についての確認を行い、ついで各県同業会の活動報告を行った。最後に奥山専務理事が日食協活動報告として11月7日に開催された本部理事会の内容を報告した。18時より会場を移して賛助会員連絡会を行った。最初に網田支部長が挨拶し「食品流通業界においても新時代の到来は構造変化の局面にある。人口減少と少子高齢化の進行に伴う消費構造の変化に加え、ITの活用やキャッシュレス化の推進による顧客接点の多様化、更には人手不足への対策や環境対応といった流通インフラの質的改善を求める諸問題に業界としてしっかり対処し新たな成長軌道に乗せることが求められる。福岡地区協議会においても通常の活動とは別に各社の物流担当者が集まりトラック入荷受付・予約システムや共同配送、リードタイム延長化への対応を協議する分科会を発足させ活動していく事とした」と述べた。ついで支部事務局から連絡協議会と同様の報告。最後に奥山専務理事から日食協活動報告をNーTorusの動画を交え行い終了した。続いて会場を移して懇親会を行い、開宴のご挨拶と乾杯を賛助会員を代表して白羽 弘氏（味の素（株））が行い、中締めを本村陽一氏（コゲツ産業（株））が行って閉会した。



九州・沖縄支部賛助会員連絡会 会場